

「主の臨在と共に歩む」

～主の御心に生きるために～

「神は、私たちが裁きに遭わせようと定めておられるのではなく、私たちの主イエス・キリストによって、救いを得ることができるよう定めておられるのである。主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが生きる時も死ぬ時も、主と共にあるためである。」1テサロニケ5章・10節現代訳

パウロはテサロニケの人々に、今はこの地上にはおられないイエス・キリスト様を示したかった。分かって欲しかった。しかし、テサロニケの人たちは見事にそのキリストに出会い、キリストによって生きていくようになっていた。それは本当に素晴らしいことでした。しかし、それでも繰り返し繰り返しパウロは彼らにイエス様と共に歩むとはこういうことなのだ！と伝え続けました。それは、私たちはいつの間にか主から離れてしまう存在であることを良く知っていたからだとパウロは自覚していたからでしょう。幾ら目の前にいる素晴らしいパウロ先生を示したからといって、それはイエス様ではなく、あくまでもパウロ先生。キリストのように生きるとは、素晴らしい自分自身として生きることではないということをパウロは示したかった。私たちがいくら自分を磨いて素晴らしい人格者になったとしても、それはキリストを示すのではなく、自分自身を示しているだけしかない。そうではなく、キリスト様ご自身のものとしての自分自身を示す必要がありました。だから、パウロはよく、自分自身を「キリストのしもべ＝奴隷」と表現したのだと思います。主と共にある生き方とは、自分自身がもはや自分自身ではなく、キリスト様のものであることを徹底的に理解することだと言えます。私たちの心のままに生きるのではなく、キリスト様のお心のままに生きるのです。キリスト様のお心のままに生きるためには、私たちが自分以上にキリスト様のことを理解しなければならないということです。自分自身を出て、キリスト様の中に生きる必要があります。しかし、そんなことは私たちには簡単にできることではありません。だからこそ、私たちの内におられる神の霊である、聖霊様、御霊様のエスコートが必要なのです。

2019年最後の礼拝となりました。今年は大きな台風による災害が起こりました。未だに元の生活に戻れていない方々もおられます。この教会でも大きな病などによって大きな試練と向き合わなければならない方々が多かった年でした。本当に祈りに導かれました。緊張しっぱなしだったように感じます。しかし主はそれ以上に豊かな恵みを注いでいるということも感じています。試練は私たちが主にさらに近づくための大いなる方法だったと感じています。試練を通して、それまで考えもしなかったような神様の恵み深いお心を知ります。How toで信仰を説明することはできても、信仰がその人のものとなるためには、試練を通して神様の前に出て、神様ご自身を知り、そのことで信仰経験が与えられます。そして、私たちの心が変わられていきます。今、皆さまお一人お一人の心をチェックしてみてください。きっと、前の自分と変わっていることでしょう。それがキリスト様と共に生きる事なのではないでしょうか？